

A 教育委員会への調査

1. 調査概要

・調査方法

当財団調査員によるアンケート調査

・調査期間

2018年10月～2019年3月

・調査対象

教員研修を実施している団体【教育委員会（教育長，事務局幹部，担当指導主事），各校長会（校長会長，部会長，各学校長）の代表者，担当者，および教育研究会など】に対して実施した。

・調査内容

文化省が示す「これからの学校教育を担う教員に求められる資質・能力」を受けて，各団体で実施されている研修（特に創意工夫されている点など）

2. 調査結果

今回，さまざまな団体にご協力をいただきアンケートを実施したが，ある教育委員会においては，以下のような形式で，管内の調査結果，及び分析に関する報告会を開催した。

A県では，例年1月下旬～2月上旬に県内理科指導主事が全員参加する研修会が行われている。

今回，令和元年度研修会において，理数教育研究所が行った教員対象の調査結果についての報告を実施した。主に『Rimse 東京懇談会研究紀要』に掲載されている「教育現場が直面している諸課題についての研究」の「教員調査における調査経過・結果報告」が中心であった。調査の実施に当たっては，A県の小・中学校の先生方のご協力によって，特に理科に関する調査結果が多く得られたことから，全国とA県の現状について，比較を交えながら分析結果の説明を行った。

その中で，参加された指導主事より下記のようなコメントをいただいた。

「県内の児童生徒の学習状況については，全国学力・学習状況調査等の結果から把握することができるが，教員の意識等を把握することは難しい。今回の調査結果は，現場教員の実態や本音が表れていたように感じた。この結果を参考にしながら，今後の研修の在り方等を検討していきたい。」

3. 今後の課題

本調査は，教員研修，校内環境，学習内容の3つの項目から任意の設問項目を選択してクロス集計を行えるなど，複数のデータを組み合わせることにより，更なる深掘りができるので，今後の分析にも有効に生かしていきたい。